

大豆・豆腐で食育

愛知・高浜市 NPO法人だいできっず

愛知県高浜市の「特定非営利活動（NPO）法人だいできっず」（沢田和英代表理事）は大豆栽培から豆腐作りまでの一貫した体験を中心に食育を推進。その活動は、人材育成と「ペイフォワード」（未来への投資）の精神で他団体や海外との連携にも発展。今年、食と農林漁業の食育優良活動表彰で農林水産大臣賞を受賞した。

原料の正体知らずがくぜん 栽培から製造までの体験を

だいできっずの事務局は、国産大豆にこだわり、豆腐などを生産する佃おとうふ工房いしかわ内にある。「食育は創立15周年事業で始めました」と代表理事の沢田さん。同社の情報戦略室長で社員教育も担当する。

「そのころ製造部門にいた沢田さんはある日、床に落ちていた原料の大豆を拾う。「ふやかした大豆がわからず、丸い粒の正体がわ

「社内テーマを深め、おいしい・楽しい・うれしいの『食育の3しい』、家族や仲間とともに育つ『共育』、そしてペイフォワードを掲げました」と沢田さん。ペイフォワードとは受けた恩を相手に返すのではなく、別の人や次世代に渡す考え方だ。

こうしてスタートした事業は「初回から感動しました。種は1か所に3粒まぎます。それはハトのため、土のため、そして自分のため、と農家に教えられました。土は社会につながりません」。そして大豆の生命力にも心打たれた。

畑はグループごとに区割りし、世話に責任をもつ。活動は種まき、畑の写生大会、

枝豆収穫、大豆収穫、豆腐作りの年5回。イベント会場の駐車場には屋台を並べ、参加者が昼食を作る「食育屋台」などのお楽しみ企画も。スタッフは社員の有志で、裏方も企画出しも任される。食育事業は重層的な人材育成の場でもある。

事業は順調に進み、5年後にNPO法人化。社会的に独立した。他団体との連

重層的な人材育成の場にも 一企業の活動が多地域に

ペイフォワードの精神で

- ① 3×5畝の区画で約50組が大豆の力を体験する。参加費は1グループ年間1万円
- ② 自作の看板はコンテストがある。今年の優勝作品
- ③ 手作り教材の紙芝居を上演



西尾市吉良の塩田で揚げ浜式製塩を体験

携で活動の幅を広げ、学習帳などの教材作りと併せ教育プログラムとして変革をとげていくことになる。

例えば豆腐に欠かせない水やにがりを通じ、自然の循環にも目を向けた。同じ三河の塩田保存会との交流では、できたのにがりで豆腐を作るほか、おからと塩を合わせた「おから味噌」で大豆と塩の再会のドラマを体感する教育プログラムを開発した。

また特別支援学校の生徒の絵で大豆の紙芝居を作ったり、農林高校生にイベントを手伝ってもらったりなど地域とも連携。はるかケニアで大豆を使った食育の支援も始めた。

「教育プログラムがあれば食育を他の地域に手渡せます。『食育連鎖』によるペイフォワードです」と沢田さん。一企業から始まった点の活動は多地域の面へ、さらに未来へと広がっている。



人材教育も担当する沢田さん。「大豆も人間の可能性も無限大です」とこぼす



育
列島最前線
食農教育